

会 議 速 報

平成 29 年 8 月 2 日

件 名	平成 29 年度第 1 回鹿児島市船舶事業経営審議会	作 成 課	船舶局総務課
日 時	平成 29 年 7 月 18 日(火) 14:00~15:50		
場 所	桜島港フェリーターミナル 3 階大会議室		
出 席 者	経営審議会委員 8 名 (欠席者 1 名)		
市出席者	船舶局長、次長、営業課長、船舶運航課長、関係職員		
協議・報告等	審議事項 (1) 29 年度船舶事業特別会計予算等 (2) 船舶事業経営計画の見直しに係る基本方針 (案) (3) 桜島納涼観光船 2017 の案内		
主な意見等	(1) 29 年度船舶事業特別会計予算等について ○ 29 年度予算では、船舶が 1 隻減となっているのに重油費が増えているのはなぜか。 → 船舶が 1 隻減となっても、運航する便数 (運航距離) は変わらないことから、電気推進船であっても売却した一層積船と比べて、二層積船の方が船舶燃料の消費量が多いため、29 年度予算では、重油費は増える見込みである。 ○ 決算が出たときに、電気推進船の導入が、結果としてどうだったのか検証することは、経営計画の見直しの参考になると思う。 (2) 船舶事業経営計画の見直しに係る基本方針 (案) ○ 運賃改定を行うとすれば、総括原価方式で料金に反映させるときに、旅客運賃と車両運賃を一律何%アップする方法が良いのではないかと。綿密な運賃の検討が必要だと思う。 ○ 今まで通りの運航ダイヤを、ずっと続けるのは企業努力としていかなものか。 例えば、あまり利用の少ない午前中、午後や夜間の便数を減らしてはどうか。 ○ 東九州自動車道の利用料金とフェリーの運賃を比較すると、フェリーの方が安いにも関わらず、車両が東九州自動車道へ流れるのは、金額の問題ではないのではないかと。車両をフェリーに戻すためには、別の戦略が必要なのではないかと。 ○ 桜島の人口が減って、高齢化率が上がってきており、観光客の収入の割合が増えているのではないかと。原点は、島民の足、移動手段だと思う。観光事業は、あまり収益に踊らされず、公共性と事業性をバランスよくした方が良くはないかと。 ○ 外国人旅行者が増えているが、バスで来るような団体旅行客は、短い日程の中で桜島には来ない。同じ外国人旅行者でも欧米系やアジアの FIT (海外個人旅行) の人達にターゲットを置くことが大事である。インバウンドを狙うのであれば、観光交流局と連携を取って、桜島に渡ってくるようにストーリー性のある体系的なプロモーションをすることが必要である。 ○ 基本方針 (案) に示されている主な取組みについては、より検討を進めて欲しい。 ≪公表 鹿児島市船舶事業経営計画事業評価 (平成 28 年度) の報告 概要≫ ・同計画の各取組項目について、一部方針を変更したものを除き、計画に沿って実施・実行した。 ①方針を変更したもの (運航体制、在来船の自動ドア化) ②計画に沿って実施・実行した主な取組み (桜島港フェリーターミナル建替工事など)		